

おむすび納涼会

いつも「リフレッシュ体操」で教えてもらっている鈴木先生の振り付け指導の下に7月28日に納涼盆踊りを開催しました。まだ真夏の暑さが冷めやらぬ夕方4時半から近隣の人達が集まって、「東京音頭」「ドラえもん音頭」「ダンシングヒーロー」を踊りました。

踊りの後の30分間の休憩中は、模擬店や子ども達相手のゲームの時間です。マグネットを使った魚釣りゲームやコリントゲーム、輪投げなどで子ども達も若いママさん達とはしゃいでいました。

夕方涼しさも出てきた頃には人もさらに多くなり、再度、「炭坑節」、「ドラえもん音頭」、山本リンダの「どうにもとまらない」を輪になって踊りました。

最後は、「雅楽多」（阿波踊りの連）さんの登場です。女踊りと男踊りのコツを教えもらい「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々」とばかりに、見物の人達も一緒になってやぐらの周りをグルグルと阿波踊り。熱気溢れる中で納涼会が終了しました。



この他にもいろいろな活動をしています。詳しくはおむすびハウスHP（最終面のQRコード）をご覧ください。

多世代交流

子ども達からお年寄りまで多世代の人達が交流する「おり染めでうちわ作り」と「ミシンでトートバッグ作り」を7月25日と8月22日に行いました。大勢の運営委員のほか、2日間合計で小学生14名とママさん7名、さらには、お手伝いで大学院生（地域の高齢者の交流の場を研究中）と夏体験ボランティアの男子中学生も参加して、それはそれは賑やかでした。

ミシンを使うのが初めてのお子さんも多くて、「難しかった」「楽しかった」

の声。ママさんたちからは「家にミシンがないので、参加できて良かった」等の声をいただきました。おり染めを選んだ方も「和紙を染めて開いたときに、思いがけない模様になっているのが楽しかった」と、みなさんで思い思いの作品を仕上げていただきました。



心を癒す演奏会

音楽には人のこころを癒やす力がある、ということを実感しました。7月11日にピアノ（諸隈まりさん）とコントラバス（本間園子さん）のお二人の演奏によって、エルガー「愛のあいさつ」、バッハ「G線上のアリア」という抒情あふれる楽曲が、おむすびハウスに響き渡りました。コントラバスの豊かな音色が心に響きました。

この他にもショパンの「ワルツ」2曲、「幻想即興曲」などの演奏の後、諸隈さんのピアノの伴奏、本間さんの指揮で、「夏の思い出」「海」「蛙のうた」「湖畔」を会場の皆さん一緒に暑さを忘れて歌いました。

諸隈さんと本間さんは2005年から老人ホームの「大沢の家たんぼぼ」や他地域の高齢者施設で演奏活動をされているそうです。音楽によって心を癒される人達が一人でも多くなることを願っています。



プロの落語で大笑い

プロの落語家「入船亭遊京」さんをお呼びしての「おむすび寄席」を開催いたしました（7月13日）。遊京さんは、2010年10月に入船亭に入門、2015年11月に二ツ目昇進し、現在真打ち目指して活躍中の新進気鋭の落語家さんです。

「新聞記事」「船徳」「井戸の茶碗」の3つもの演目を披露していただき、会場・オンラインとも拍手喝采でした。「船徳」では体をはっての熱演、「井戸の茶碗」では汚い茶碗を巡っての意地のやりとりを面白く語ってもらいました。

聞けば遊京さんは2017年に80日間中国一周旅行を敢行したとか。そのエピソードも紹介してもらいましたが、それがまた抱腹絶倒の面白さでした。天性のユーモアの感覚が溢れていました。

真打ち目指して頑張れ 遊京さん！

おむすび寄席



本活動は2023年度三鷹市講師派遣事業の補助を受けました

遊京さんのブログでおむすび寄席の様子を載せていただきました（QRコードから入ることができます）

おむすびハウスオープン（2017年10月）以来、コロナ禍をくぐり抜け、2023年5月に延べ参加者が2万人を突破しました！

